

13名のジョブコーチ トレーナー誕生！

当プロジェクトでは、障害者の一般就労を個別に支援し定着を促すジョブコーチの育成とプログラム作りを行っています。ジョブコーチの育成を海外からの講師に頼らずヨルダン人が行えるように、労働省やNGO、企業からの代表者13名が半年間の研修を終えて、ジョブコーチトレーナーとなりました。

今後はヨルダン労働省によって、少なくとも年に2回のジョブコーチ研修が開催される見込みで、NGO、省庁など支援者向け5日間のコースと企業向け3日間の研修を実施する予定です。

この13名はヨルダンのジョブコーチネットワークの中心となり、今後ジョブコーチとなった人たちと経験や情報の共有を行い、つながりを作っていく役割も担っています。



ジョブコーチと知的障害を持つレストランスタッフ



ジョブコーチ指導者養成研修修了式にて

日本とマレーシアでの 研修成果発表会

ヨルダンで、今後ジョブコーチのプログラムを作り実施するために6名（労働省2名、NGO2名、企業2名）が10月末から18日間、日本とマレーシアでジョブコーチの制度と実施について学びました。参加者は研修最終日にそれぞれ各団体としての今後の活動計画と、研修員グループとしての方針など話し合い、帰国後12月4日に改めて、労働省で報告会を行いました。今後もネットワークを生かしてさまざまに協働する予定です。



大阪府庁で知的障害者のための就労支援事業を視察

シリア難民女性障害者グループ活動

プロジェクトではグループ活動の一環として卓球などのスポーツを続けてきましたが、いったん終了し、自立や就労を目指した取り組みをしていくことになりました。



シリア難民女性障害者と家族で今後の活動について話し合い

第2回JCC(合同調整委員会)開催

プロジェクトの進捗状況に関係者間で確認し、今後の計画を話し合うJCC(合同調整委員会)を12月4日、労働省にて開催しました。ジョブコーチの育成研修などは予定通り進んでいますが、今後はどのようにプログラム化して継続させるかが課題となります。



第2回JCC会議の様子